

## 宍道湖流入河川に生息する標準和名の消えた

### ヨシノボリ属魚類について

佐々木 興（島根県立宍道湖自然館ゴビウス）

河川に生息するスズキ目ハゼ科魚類の中で、もっとも普通に見られるのがヨシノボリ属魚類であり、島根県には7種類が生息するとされていた。このうち宍道湖に流入する河川にはオオヨシノボリ、カワヨシノボリ、シマヨシノボリ、ゴクラクハゼ、トウヨシノボリの5種類が生息している。しかし、そのうちのひとつは現在、標準和名が消えた状態である。

トウヨシノボリ *Rhinogobius* sp.OR は沖縄県を除く、全国の河川に生息するヨシノボリ属魚類である。繁殖期を迎えたオスの尾びれの付け根が橙色に染まることから付けられた和名であるが、各地での変異が大きく、これまで橙色型、偽橙色型、宍道湖型、縞鱗型の4つの型があるとされていた。しかし、近年の研究によって宍道湖型以外の型の中から新たな種類と思われるものが分類され、新しい標準和名がつけられた。その結果、トウヨシノボリという和名、およびそれぞれの型を残す根拠が曖昧になり、2013年に発行された「日本産魚類検索全種の同定第Ⅲ版」でトウヨシノボリという和名は消されることになった。

トウヨシノボリ宍道湖型は、宍道湖に流入する河川にも生息している。今回の結果により、宍道湖自然館周辺で採集されるトウヨシノボリ系魚類は、本来であれば「ヨシノボリの仲間」と標記しなければならない状態である。

今回の発表では、宍道湖に流入する河川に生息するヨシノボリ属魚類の紹介にあわせ、この和名消失の経緯とその後の混乱、そして今後の課題などについても紹介する。



トウヨシノボリの体色の変異